

図書だより 第10号

令和8年2月27日 発行
兵庫県立飾磨工業高等学校 全日制 図書部

2月26日に3年次生が無事に卒業しました。残念ながら、1年次、2年次の時に学校を去ってしまったクラスメイトも居り、3年前に入学した全員が卒業を迎えられたわけではありません。入学してから3年の間には「しんどいなあ」「学校行くの嫌やなあ」「授業だるいなあ」と思う日もあったと思います。それでも卒業した人たちの大半は真面目に授業を受け、決められたルールを守り、自分の進路実現のために努力し、卒業することができました。色んな道があるので、「高校卒業＝人生のすべて」だとは思いませんが、せっかく飾磨工業高校に入学し、縁あって友達になったクラスメイトと一緒に1年後、2年後に全員揃って笑顔で卒業したいと思いませんか？そう出来るよう、友達同士、お互い叱咤激励しあいながら頑張って卒業を目指しましょう！



図書部長より今年度最後のおススメ本の紹介です。

「ほどなく、お別れです」 長月天音

主人公の美空は就活中の大学4年生。不動産関係を希望して就職試験を受けているが、毎回落とされる。縁あって、時々アルバイトをしていた葬儀場で就職をすることになった。彼女を必要としてくれるスタッフの漆原さんもいたし、彼女の優しさが、大切な人を亡くした喪主さんたちの心に寄り添うことができるというのもあった。そして何より、彼女は亡くなった方の気配や気持ちを感じることができた。亡くなった人が安心して旅立てるように、葬祭ディレクターの漆原さんをサポートしていた。漆原さんはいつも「訳アリ葬儀」の担当者だった。

この本には、たくさんの訳アリ事例が紹介されているが、そのどれもが特別に変わっているわけではない。見送る人と見送られる人との感情の修復や、残された家族の思い残しなどを取り除くために、漆原さんや美空が頑張る様子はお仕事小説にも通じる。

亡くなった美空の姉のこと、美空を大切にしてくれた祖母が亡くなる時のことなど、家族について考えるきっかけにもなる。亡くなった妻にずっと寄り添っていたのは、その前に亡くなっていた夫だったり。悲しいはずの人の死を通して暖かい人の絆が見えてくる。

公開中の同タイトルの映画も、小説に基づいたストーリーで、美空を浜辺美波、漆原を目黒蓮が演じている。小説はシリーズで4冊出ている。

3年次生の本好きさんから最後のおススメ本の紹介です。

「一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。」 冬野夜空：著

クラスの人気者で「星のように輝きたい」と言う女子高校生の香織と、その彼女の自由奔放さに振り回される男子高校生の輝彦。ある日、彼女が明るい笑顔の裏で重い病と闘っていると知った輝彦は、彼女の最期の時までを写真におさめたいと思い、彼女を撮り続ける。苦しくて、切なくて、でも人生で一番輝いていた2カ月間。2人の想いが胸を締め付ける、究極の純愛ストーリーです。

この小説を読んで、一日一日をもっと大切に生きていこうと思えたし、命の尊さについて考えることができた本なので、皆さんにも読んでほしい、おススメの小説です！

(3-4 中塚靖菜)

1年次生の本好きさんからのススメ本の紹介です。

「さみしい夜にはペンを持って」 古賀史健：著

主人公であるタコロジーは「うみのなか中学校」に通う、どこかひねくれていて、人前で緊張するような人物です。そんなタコロジーは中学校でいじめを受けていて、「ゆでタコロジー」と呼ばれたり、無理やり体育祭の代表者にさせられたり…。学校にも居場所がなく、自分のことが大嫌い。そのことが嫌で公園に逃げると、そこで不思議な「ヤドカリのおじさん」と出会い、おじさんから「書くことは、自分と対話すること」だと教わり少しずつ変わっていく物語です。(1-4 小林俊太)

※「書く」と「話す」はどこが違うのか？ 考えるとは「答え」を出そうとすること。その作文、嘘が混じってない？ どうして「ことばの暴力」が生まれるのか。みんなと一緒にいると、自分ではいられなくなる。考えないのって、そんなに悪いこと？

書くことを通じて自分と対話を重ね、知らなかった自分を発見し、自分を好きになっていく。『書くこと』のおもしろさに触れて、「自分との人間関係」を築くことが出来る本。

**本を借りたまま返却していない人がいるようです。本を借りたことすら忘れていませんか？今一度、思い返してみてください！
特に、図書室から「返却について」の用紙を渡された人は、速やかに図書室まで返却に来るように！！**

